

車座トーク（沼隈） 概要

開催日時：2025年（令和7年）2月26日（水） 19時00分～20時30分

開催場所：ぬまくま市民交流センター 大会議室

参加者数：12人

次 第：開会・参加者紹介

意見交換

まとめの挨拶

写真撮影・閉会

【意見交換の概要】

参加者からの主な意見	市長コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・ブドウや沼南高校などのたくさんの魅力を伝えるためには、SNSを使うと良い。 ・自分自身、SNSでおいしいものなどの情報を入手することが多い。 ・地元の人にも情報が伝わり、鞆未来トンネル開通後に増加が見込まれる観光客に向けた情報を発信することで、沼隈を知ってもらえると思う。 ・たくさんの人に沼隈を知ってもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を大切にし、地元の良さを多くの人に知ってもらいたいという気持ちが伝わった。 ・補助金に頼らず、地域の人たちが協力をして自らが自分たちの地域を守っていく、良くしていくのが、沼隈の「一荷合力(いっかこうろく)」という取組。 ・平家谷おばちゃんガイドの皆さんなど、一生懸命に取り組まれる姿は共感を呼ぶ。 ・地域の人達が交流する居場所があれば良い、自分たちの思いを発表し、聞いてもらって、新しいつながりや取組が生まれ、地域の活力に繋がっていくという話があった。是非、仲間たちと一緒に行動をして、大人も小中学生も集まれる居場所を作っていくところから始めるのも素晴らしい。 ・SNSでの発信も、是非行動につなげてほしい。 ・道の駅アリストぬまくまの再整備について、単に物を売る場だけでなく、南部地域の情報発信の場であり、活性化のための大きな拠点の1つとするような動きになっている。その中に、ローカルテレビ・ラジオ局やSNSを使って発信するような活動拠点を設けてもいいかもしれない。
<ul style="list-style-type: none"> ・学生が学校終わりに気軽に寄れるようなカフェなど、話せる場所があれば良い。 ・イベントを増やしたり、学校の紹介や部活の発表などをする場所ができれば、まちを知ってもらえるいい機会になると思う。 ・それをSNSなどでPRしたら、もっと知ってもらえると思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・山南学区で育ち、小学生の頃に平家谷の学習を行い歴史の話を聞いた。地域の方がすごく山南を大事にしているところを見て、もっと他の人にも知ってもらいたいと感じた。 ・鞆にトンネルができることで、鞆の浦の観光客が沼隈町にも来やすくなると思った。 ・体験ができれば、一番、実際に魅力を感じてもらいやすいと思った。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・山南は地域の方と、こどもたちが密着して、夏祭りなど様々な行事に取り組んでいる。 ・夏祭りでは売店の準備・販売や会場設営を行うなど、経験の場が増えていくことで、こど 	

参加者からの主な意見	市長コメント
<p>もたちが輝き地域の方との関係が変わり、まちが活性化していくと感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化の影響を受け、児童生徒の数が激減している。 ・ 地域での子育て支援の活動も増やしつつ、隣接区域の小学校・中学校との連携を図り、こどもたちにとって、沼隈町は良いまちだと誇りを持って言ってもらえるよう、1人の保護者として活動していきたい。 	<p>ため、学校再編を進めてきた。地域の協力をいただきながら、様々な議論、心配、不安の声を乗り越えて現在に至っているが、学校再編は、今後も続いていくことが予想される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校間で連携しクラブ活動を行う、或いはS O S E I 学などの地域学習で至誠中学校と交流をするといった、広い範囲での学校同士の繋がり方もあるかもしれない。 ・ 担当の学事課にも伝えるが、校長とも相談され、課題解決につなげていってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティ・スクールについて、福山市では3年前に想青学園と鞆の浦学園で導入され、その後何校かで導入されており、2026年度からは全市で始まると聞いている。 ・ 想青学園のコミュニティ・スクールは、年に3回、1時間、委員が学校に集まって、主に学校の教育目標や生徒について報告を受けているが、期待されているような役割が果たせていないのではと感じている。 ・ コミュニティ・スクールという仕組み自体が、誰がリードしていくのか分かりにくい。学校としては地域に対して遠慮があって、地域も学校に対してどこまで口を出して良いのか分からないという状態で、具体的な活動に結びついてない。地域の実情に詳しい地域振興課の方などが、委員として加わり、調整すればスムーズになるのではないか。 ・ コミュニティ・スクールの全市導入にあたって、PTAとの違いなど分かりやすい周知が必要と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2026年度に、全校区でコミュニティ・スクール化を予定しているが、地域の方が教育に積極的に関わっていく思いがあって初めて成立する。 ・ 学校側も、運営に慣れておらず、お互いが遠慮している部分はあるかと思うが、積極的に思いを学校側にぶつけてほしい。 ・ 委員も固定化させず、関心を持つ人を新たに加えていただいて、より多くの地域の声を伝えていただきたい。 ・ 本来リード役は学校側だと思うが、「自分たちはこどもたちに、こういうことを伝えることができる」というような、地域の皆さん方の思いを率直に伝えていただきたい。 ・ 学校側が一方向的に報告をするだけでは、まだコミュニティ・スクールの本来の姿には至っていないと思うので、お互いに努力していきたい。 ・ 沼隈の地域は、山南小学校、至誠中学校、沼南高校もあれば、義務教育学校の想青学園、イエナプラン教育校である常石ともに学園など、様々な教育が集積している福山市内でも珍しいエリア。様々なタイプの教育がお互いに連携し、新しいヒントが生まれれば良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 沼隈半島に伝わる神楽は、2023年に最後の1つがなくなった。文化を継承するため、新たに沼隈神楽団を立ち上げた。 ・ 福山城で公演を行った際、外国人の方が「アメイジング(すごい)」とSNSにアップされ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神楽の再興は、本当に素晴らしいと思う。 ・ 現在福山城のライトアップを行っている。整備を検討している駅前広場などで、1年間通して定期的にナイトタイムエコノミーの取組をしていく予定なので、是非参加いただき

参加者からの主な意見	市長コメント
<p>た。インバウンド向けの観光資源として使えるのではないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハワイのショー・ルアウのように、文化を伝えながら、お客さんとやりとりや食事をするようなナイトタイムのアクティビティができれば面白い。 ・神楽団はアマチュアでみんな仕事をしており、活動ができたりできなったりする。沼隈半島・備後・福山全体で、いろんな神楽団が一緒になり、みんなで作っていききたい。 ・備後絣やデニムで衣装を作って、源平にちなんだ話などこの辺りの特徴を生かした新しいものを作りたい。 ・海外の方々は興味あって見られたりするので、姉妹都市の方や、移民された方々にも、是非、神楽を見ていただきたい。 	<p>たい。インバウンドのお客さんも大勢来てくれることを望んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備後絣やデニムなどを活用したいという思いは、新市の皆さんも大変喜ぶと思う。関係者と繋ぐ役割は、南部地域振興課が担わせていただく。 ・地域の皆さん方の希望があれば、姉妹都市提携間の交流の際に、発表の機会を作っていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・教育移住された方に「沼隈町は教育・子育てにもってこいなまちだ」と言われ、自然が豊かで地域の方が登下校に付き添ってくれるなど、教育の中に地域の力が入っていることを改めて気づいた。 ・昨年10月に立ち上げた「ともにみらいソウゾウ室」では、まず、地域の方と一緒に晩御飯を食べる会を始めた。来年度から沼隈全域、内海内浦も混ぜて、毎月1か所ずつ「地域食堂」として外国人も含め地域の方全員をご招待していく準備をしている。 ・学校近くの空き家をコミュニティハウスとして活用して、外国人や不登校の方の支援をしたいと考えている。 ・東京や大阪にはない、この地域にしかないものを喜んでくれる人に提供し、そのお返しをしたいと言ってくれる人がいる。こうした動きを広げたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食を通じて新しい繋がりを作っていく取組について、着実に共感の輪が広がっていていると感じた。さらに広がっていければいいと思う。 ・どの地域でもコミュニティが希薄化し、維持が難しい、地域の役員が高齢化し、後継者がいないという声を聞く。これまでの地域活動の考え方と、若い方たちが求める地域の未来像とにギャップがある。若い人ならではの活躍のフィールドがあるので、新しい地域のコミュニティづくりを、自由な発想ややり方で行ってもいいのではないかな。 ・これまでの地域団体、地域組織の枠に留まらない活動をこれからもしてほしい。地域食堂が盛んになることを願っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・常石から出て県外へ住む方に、SNSを通じて小学校閉校など常石の現状をお知らせしていくために「つねいし日和」を立ち上げた。 ・常石ともに学園に教育移住してこられた方と地域を繋ぎたい、小学校と地域を繋ぎたいと 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも、若い人たちの取組をリードしてほしい。 ・地域の日常の取組自体が、観光客に豊かな時間を与えてくれる、思いを持たしてくれることがあるので、更に発展してほしい。拠点と

参加者からの主な意見	市長コメント
<p>いう思いで、地域や地元企業、保護者の方々の協力を得て、年に4回程度イベントを行っている。今年の12月はクリスマス神楽を開催する予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> 常石は、地域の方々が餅つきのお手伝いや豚汁づくりをボランティアで協力して下さる、本当に良いまち。 いろんな方々にお手伝いいただき、イベントを運営している。沼隈の魅力を、いろんな方々にお伝えして、沼隈に住みたい、帰ってきたいという人を増やしたい。 	<p>は何も場所や建物である必要もない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 常石の新しい取組は、今私たちが考えている陸の道を通じて、幾つかの他の拠点とつながっていく。例えば、車やサイクリングなど、福山駅前から芦田川や鞆を經由し、常石までつながる。 地域資源を港でつなぐ海の道構想も進んでいる。例えば常石で降りて、地域の魅力に触れる。船に乗って別の港へ行く。そんな中継地としての拠点の1つにもなりうる取組だと思った。
<ul style="list-style-type: none"> 内海町と沼隈町、鞆の浦も含めて、南部地域全体の観光マップがあればいい。それぞれの観光協会、観光コンベンション協会を取りまとめるリーダーシップを市が行ってほしい。 沼隈町観光協会の所属会員は事業者単位ではなく、自治会単位での入会が多いため、飲食店など観光に資する事業の方々を会員に引き入れて、観光の発展に向けて動いていきたい。 沼隈町のお土産品は一次産業のものが多く、ビジネスシーンでの手土産となるものが少ないと聞いている。 私案だが、沼隈といえば阿伏兎観音で、「おっぱい絵馬」が有名なので、こうしたテーマのプリンや饅頭などお菓子系のお土産品があれば、話題性もあってインパクトのある面白い企画になるのではと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光協会やコンベンション協会を取りまとめるリーダーシップを市役所が担うというのは、これは違うと思う。もちろん最初のつなぎ役は、市役所が汗をかかせていただくが、この3つの地域がそれぞれの良さを生かして連携していくかは、皆さん方を中心にしっかり議論してほしい。それが本当の地域の繋がった力になると思う。 お土産がないというのは継続した課題だが、福山特産のくわいを使用したスイーツなど新しい動きもある。 阿伏兎観音の御利益に関するお菓子についてご意見をいただいた。ミルクセーキ味のアイスが昔流行ったが、それを沼隈バージョンで復刻するのも良い。実は、福山の企業が容器を作っている。
<ul style="list-style-type: none"> 観光について、インバウンドも含めて反応が大変良く嬉しいが、特に阿伏兎観音周辺で、若い方を中心に観光客が増え、オーバーツーリズムのような弊害が出てきている。 阿伏兎観音の駐車場の先が行き止まりで、知らずに中に入り転回できず車をぶついたり、マナーの問題等もあり、文化財を痛めてしまうことを懸念している。 駐車場の案内などの対応をしているが、抜本的な解決にはなっていない。 私案だが、阿伏兎観音から少し離れたところ 	<ul style="list-style-type: none"> 鞆未来トンネルが開通することで、来訪者の更なる増加を期待しているが、一方でオーバーツーリズムの問題がもっと深刻になる。その前に何か手を打たないといけない。 駐車場については以前から伺っているため、現在拡張の話を進めている。今の予定だと、大型バスが2台、一般車が5台。計7台分のスペースが更に確保できる、そんな駐車場を整備していきたいと思っている。 駐車場整備だけでなく、間違えて進入しないように、入口に工夫が要ると感じた。

参加者からの主な意見	市長コメント
<p>に観光のコンテンツを創出することで、分散化させて、渋滞緩和ができるのではないかと。駐車場整備も必要と思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家や耕作放棄地の土地が目立つと、イメージが良くない。この地域に永住したい、或いは商売をしたいと思えるようなサポートや魅力の発信していきたい。 ・市無形文化財の能登原とんどなど、知られていない魅力がたくさんあり、こうしたものが発展の起爆剤になればと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なハード・ソフトでオーバーツーリズム対策をしていきたい。 ・体験型の機能分散が、オーバーツーリズム対策に繋がる。これはまさに、道の駅でないかと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・この地域の魅力は、やはり人と一次産業、教育、景観だと感じている。 ・市長が目を向けていただいた道の駅の再生が、今日皆さんから聞いた問題について、集約して解決するというか、チャンスになるような場所になりそうだと思う。 ・道の駅を核にして、魅力発信や課題解決を集約していくためには、定期的な地域での懇談会が必要ではないか。 ・地元の人々の生の声をしっかりと形にして、道の駅再整備というきっかけに詰め込んでいければ良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お二人に総括をしていただいた。 ・単に、道の駅アリストぬまくまが、新しく作り直されるだけではいけないと思う。 ・重要なのは、新しくなったアリストぬまくまにどのような機能ができあがるのか。そして、様々な活動の場にもなっていないといけないと思う。 ・現在は16時で閉店だが、ゆくゆくは営業時間を延長するなど、この南部周遊の一大拠点にしていきたいと行政も思っている。皆さん方の力と知恵を合わせて、そういうものにしていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅アリストぬまくまの供用開始から30年の節目に、道の駅再整備の話をいただき、大変期待している。 ・観光客の誘致はもちろんだが、地域の課題解決やニーズを実現する場所になるべきであり、できるだけ地域の声を拾える場を来年度作りたい。 ・観光客と地域の皆様が交流できる場所、地域のにぎわい、情報発信、集客の地域の拠点となるよう、取り組みたい。 ・沼隈だけでなく、福山は魅力がたくさんある。今後、鞆未来トンネルの開通や福山道路などの道路が整備され、市内移動が短縮されれば、県外から観光客を呼ぶということも1つだが、福山市の市民対象にしたマイクロツーリズムを中心とした「福山モデル」を作っても面白い。 	

【まとめの挨拶】

○市長

- ・ 韮未来トンネルの開通、道の駅アリストぬまくまの再整備を大きなチャンスと捉え、南部の周遊ルートを、陸と海の周遊ルートをそれぞれ併せて作りたい。地域が元気になる基盤を作りたい。
- ・ その中で、アリストぬまくま以外にどのような拠点を作っていくのか。どのようなルートに沿って活動を盛んにしていくのか、これは主役である皆さま方にかかっている。
- ・ 南部の振興に、一緒になって大いに汗をかきたいと思いますので、よろしくをお願いします。